

離散ヴォリューム集合体

ー 建築と都市における空間のヌケと連続性による複合建築の計画 ー

1. 研究内容

建築や都市の中に様々なヌケのある空間が存在する。それらは視覚的に抜けているだけでなく、人の行為や移動空間、風景などと連続性を生じていることで、魅力的な空間として捉えることができる。ここで言うヌケとは平面的および断面的に視線が抜けることを指す。連続性とは用途、意味、動線、風景などの繋がりが有ることと定義する。このヌケの空間を今日の高密度化する都市で考えることは重要なことだと考える。密集しあっている多くの建物は容積率が強く意識されており、それらの建物は多くの床面積を獲得できる点では評価できるが、自己完結した建物となってしまう、外部との関係が希薄な壁のような建物になり、都市に対して閉鎖感を生んでしまっている。そこで、本研究では、ヌケのある空間の調査・分析を行い、それらを参照し積極的に導入することで自己完結型の建物で終わるのではなく、都市生活に活気をもたらせる設計プロジェクトに展開する。

2. 調査・分析

本研究での調査・分析方法は、建築や都市の中に存在するヌケのある空間に着目し、それぞれの事例の空間構成の仕組みを理解することで、「空間のヌケの性質」と「空間のヌケとの連続性」を整理しようとしたものである。建築においては、建築外部・内部に項目をつくり、様々なヌケ方のタイプを分類した(図1~図4を参照:これらの作品は分析結果より抜粋したものである)。都市においては、不整形な街区と整形な街区に着目し、ヌケ空間を調査した。それぞれの街区を持つ都市空間を分析すると、ヌケの性質が異なり、街の雰囲気に影響を与えている結果を得た(図5~図7を参照:これらの作品は分析結果より抜粋したものである)。

3. 計画地

設計の計画地はJR京浜東北線大森駅北口の東側にある3つの街区とした(4枚目の配置図兼平面図を参照)。大森は区立図書館を含んだ複合施設の計画があり、アピール大森工場などの跡地に商業施設が建設されてきた。また京浜急行路線バスの拠点でもあり、品川区や大田区の湾岸部への交通アクセスの結節点として、多くの旅客が利用している。敷地とJRの線路の間には約700mの細長い大井水神公園があり、近隣の人たちの憩いの場として利用されている。しかし、この公園は街の裏的な場所に位置しているため、都市空間と積極的な関係を持っているとは言い難い状況である。今後も大森駅周辺は地域の活性化を図っていくことが考えられ、さらに再開発されていくことも予測される。この街区に空間のヌケを用いた建築や都市の景観を提案することは、都市生活者にゆとりある空間を与えると共に、都市と建築と人々につながる空間を創出することになると考える。

4. 離散ヴォリューム集合体:空間のヌケと連続性による複合建築の計画

建築空間をつくる上で、機能上、映画館や倉庫や厨房や洗面トイレなど透過性のない壁が必要な空間や室がある。不透明な壁が同一平面上に配置されるとヌケの空間を阻害することになる。そこで、不透明な壁で囲まれる空間を集めて一塊のもの(ここでは、このことをヴォリュームと呼ぶ)にする。その際、出入口や採光や通路などが必要となる所にヴォリュームに開口をあける。この考えを元にし、色彩した大小様々なヴォリュームを3次元空間に離散させ、それらの間に多様なヌケの空間をつくる。さらに、有効床面積を確保するためにその間にスラブを積層させ全体を構成する。(図8)

これらの建築操作は以下のような効果をもたらせると考える。

並木となっている2号線と桜が咲く大井水神公園側とを関係付け、樹木の緑や都市の賑やかさを感じさせる。

ヌケの空間により、外部の人々を引き込むことを誘発すると共に、内部の活動の様子が公園や街へと伝わる。

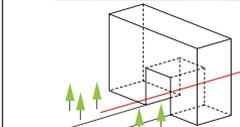
リニアな敷地に建つ建築の外観は同じデザインが反復し、1枚岩のようなものが多いが、凹凸のある彫りの深い外観と色彩により、都市景観に豊かな表情と変化をもたらすことができる。

建物のプログラム(図9)として、計画地である3街区の1~2階を商業施設とするが、駅側の街区と中央の街区の駅側半分は1~6階に商業施設を配置し、多方向から人々がアクセスでき楽しさが生まれる空間にする。中央の街区の残り半分と駅側から最も遠い街区の3~7階にオフィスを配置し、商業施設のざわめきと切り離すことで、落ち着いた作業空間を作る。ここでは、視線的に商業施設や公園側の様子を感じさせる。駅側から最も遠い街区の3~7階に住居施設を配置し、プライバシーを確保させながら、大きな吹抜け空間を作ることで、明るい環境にさせる。

地図出典: グーグルアース



図1 ナビオス横浜:アールアイエー



ヌケ	平面的 断面的	1方向 0
連続性	風景、動線	
	-	

図2 十和田市現代美術館:西沢立衛



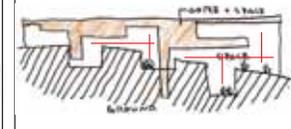
ヌケ	平面的 断面的	多方向 多方向
連続性	展示、街	
	出典: 新建築 2008.05	

図3 原野の回廊:五十嵐 淳



ヌケ	平面的 断面的	1方向 0
連続性	居室のゾーリング、動線	
	出典: 住宅特集 2006.10	

図4 青森県立美術館:青木 淳



ヌケ	平面的 断面的	多方向 多方向
連続性	展示	
	出典: GA JAPAN 82 住宅特集 2007.7	



図5 渋谷:不整形な街区でできた都市空間



図6 銀座:整形な街区でできた都市空間



図7 Nishi-Shinjuku:整形・不整形な街区が混在した都市



図8：空間構成ダイアグラム

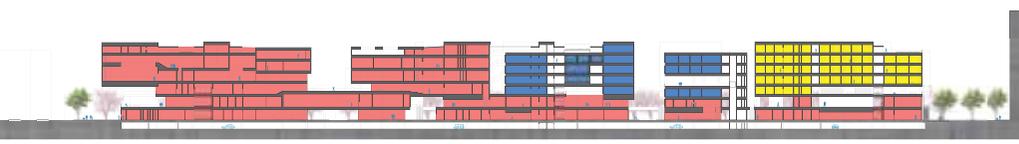
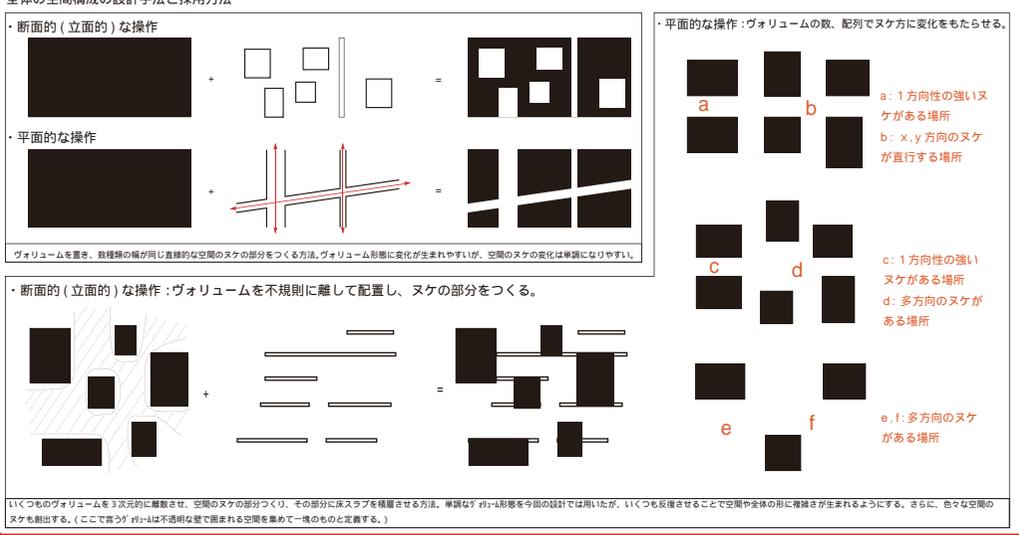
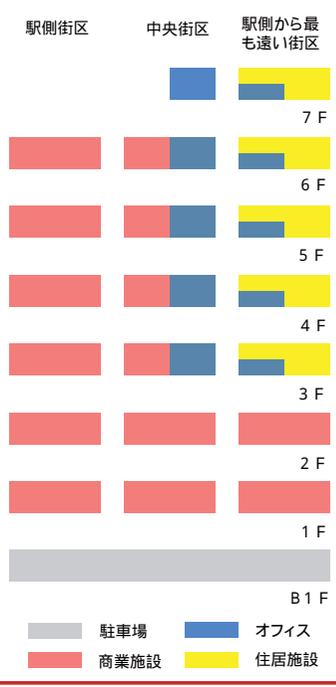
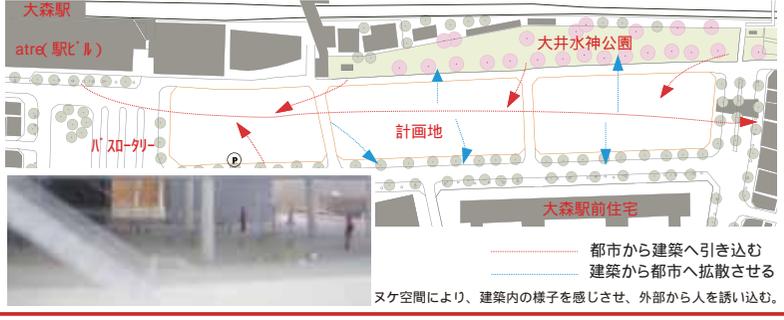


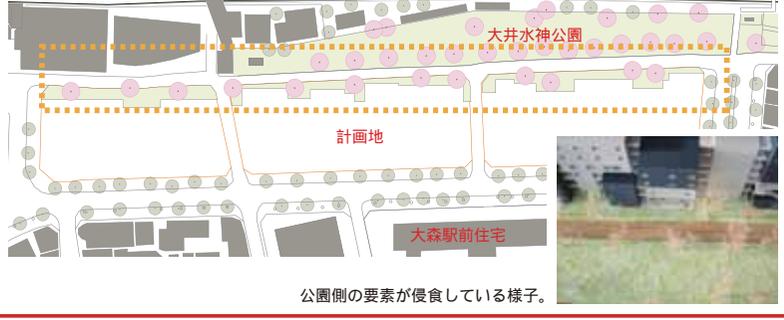
図9：設計物の用途分けのダイアグラム



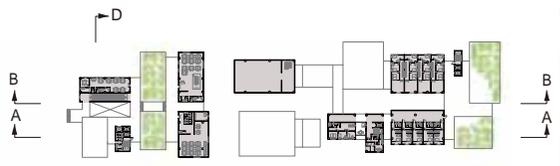
空間のスケを通して、あらゆる方向から人がアクセスできるように計画



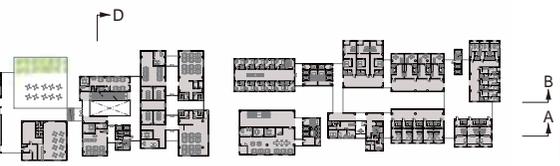
公園側の要素を計画地に浸食させる計画



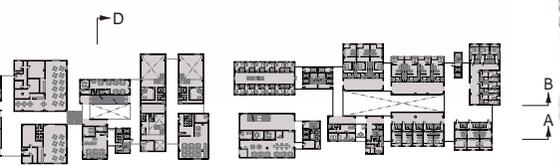
設備機器をヴォリュームの中に内包することで、外観デザインに配慮する。



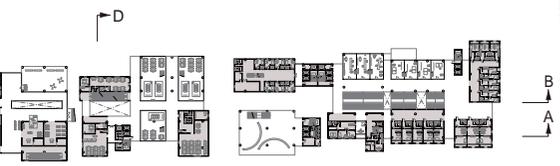
7 F 平面図



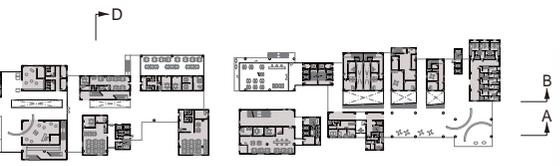
6 F 平面図



5 F 平面図



4 F 平面図



3 F 平面図

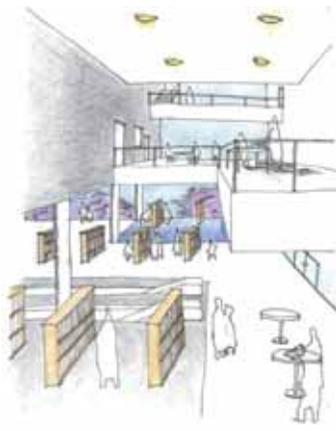


2 F 平面図



鳥瞰パース: 凹凸のある外観の表情と公園側の雰囲気感をあらわしたもの。外観の凹凸は設計物の表情に変化を与えるだけでなく、公園側への压迫感を減らす効果もある。

0 5 | 20 | 50 | 100 (m)



駅側の街区の商業施設内にある本屋の様子
桜や吹抜け部分から上を見ることができる。



中央の街区の商業施設とオフィスの間の様子
縦方向と公園側に視線が通るようになっている。



駅側から最も遠い街区内の様子
このパースから見て向こう側や縦方向の吹抜けや左側の公園の雰囲気を感じとれる。



■ ガーユーム（不透明な壁で囲まれる空間を集めて一塊としたもの）を示す。



配置図兼 1 F 平面図



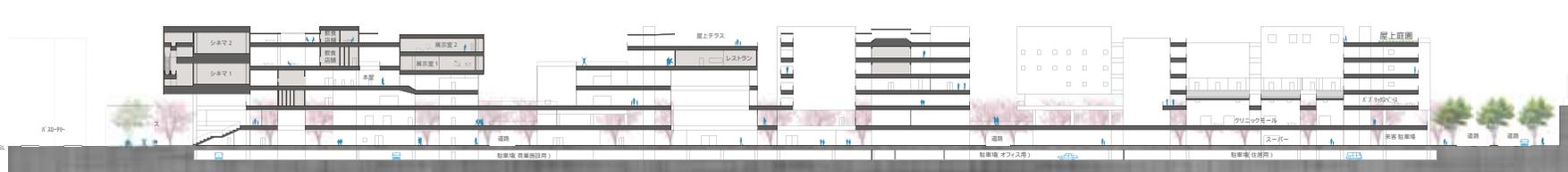
C - C 断面図



南東立面図



D - D 断面図



B - B 断面図

5. むすび

本研究では「空間のヌケと連続性」に着目し、空間的ヌケの様々な建築操作を行うことで、奥行き感のある空間や、彫が深く陰影の濃い豊かな表情を持つ複合建築を提案した。こうした建築が都市において、人々にのびやかで気持ちの良い感覚を与える場をもたらすと考える。